

第一部会（第21期・第1回）議事要旨

I 日 時：平成20年10月2日（木）10：30～16：00

（昼休み 12:00～13:30）

II 場 所：日本学術会議5-A(1)(2)会議室

III 出席：広渡部長、小林副部長、木村幹事、山本幹事、秋山、浅倉、池田、井上、猪口（邦）、猪口（孝）、今田、岩井、碓井、江原、大沢、苧阪、落合、戒能、桑野、小杉、小谷、酒井、桜井、櫻田、佐藤、島菌、庄垣内、白澤、白田、鈴木、鈴村、高橋、田口、橘木、田中、辻村、直井、野家、野村、長谷川、平松、廣瀬、藤井（讓）、藤田（昌）、藤本、前田、町野、松沢、丸井、山岸、油井 51名

欠席：青柳、秋田、吾郷、淡路、五百旗頭、磯村、井田、猪木、今西、上野、内田、翁、加藤、河野、木下、津谷、長谷部、樋口、藤井（省）、藤田（英）、宮本、森棟 22名
（事務局）川上、高橋、藤本、大西

IV 議 事

1 部長の互選について

前例に従い、前期からの会員で最年長の廣瀬会員が座長に指名された。事務局より部長の互選と役員を選出方法について説明があった。また、部長の互選に先立ち、出席会員の自己紹介を行った。自己紹介の後、すぐに部長を互選するのは無理があるのではないか、との意見がだされ、その後、以下のような意見交換がなされた。

- ・ 第20期の執行部より第20期の実績、次期への課題について報告があった上で行うべきではないか。
- ・ 次回からは約半数が入れ替わるので、今期がやや例外的であり、期のはじめに前期の執行部が総括を行うという事態は通例考えられない。
- ・ 第19期までは総括文書を作成していた。第20期では年次報告がそれに代わっている。第1部はニューズレターの最終号で活動の総括報告をしている。これはすでに配布されている。必要ならば、たまたま前期の部長が今期の会員としているので、このニューズレターにそって簡単に報告することも考えられる。
- ・ 投票に際して、会長選挙で7割出席、6年会員の方は半数ほどしか出てい

ないのではないか、その中で、多くの会員が無力感を感じているのではないか。第1部会員の共通課題は2つ、人文社会科学にお金を支出、次世代の育成（女性研究者の登用）、だと思っているので、女性の登用を希望する。

- ・ 人文社会系が外される傾向があると感じている。第1部のことをお考えいただける方をお願いしたい。第1部内のバランスも考えられる方をお願いしたい。
- ・ 総理、甘利大臣ともに知的財産になるものに力を入れるという発言があったのはショックだったので、政治的働きかけができる方をお願いしたい。
- ・ 外の学術会議に対しての認識が弱い。ここからスタートして何ができるかを考えるべきであって、人文社会科学を守るというよりは裾野を広げていくことが使命なのではないか。人文社会科学の積極的役割を示していくべき。
- ・ 今までどういう活動をしてきたかを振り返るべきではないか。教養教育の再評価に力を入れてきたが、聞く耳にとどいたのだろうか。人文社会科学を世間に広める戦略として適切な課題だったのだろうか。

意見交換ののち、投票が行われ、第1回投票において広渡会員が過半数をえて、部長に選ばれ、廣瀬座長より就任の意思確認があり、新部長としての挨拶があった。また、今後は、出来るだけ自由な意見交換の場を設け、とくに夏部会ではゆっくりとした討議の時間を設けたいとの発言があった。

2 機能別委員会の委員について

広渡部長より機能別委員会の選出方法について説明があった。他薦についての質問が出たが、ご本人の了承を取る必要があるので、今回は自薦のみとした。

(お昼休み)

3 役員の指名

広渡部長より副部長として小林会員、幹事として山本会員、丸井会員の指名があったが、丸井会員から辞退の表明があったため、あらためて木村会員が指名された。

4 機能別委員会委員

機能別委員会について、本人の希望に基づき、調整の上、広渡部長より委員の配置について発表があった。

5 分野別委員会・分科会について

分野別委員会委員について候補者名簿が承認された。分科会の継続について資料4に基づき、分科会の改廃について説明があり、新設の分科会について、3日の分野別委員会です承された上で、その後の幹事会に提案する旨、説明があった。第20期で設置され変更のない分科会は、分野別委員会で確認の上そのまま継続される。また、3日の分野別委員会の議事内容について説明があった。

6 新連携会員の説明会について

分野別委員会の委員長、副委員長が出席し、各分科会について説明する。部長より部の説明を行う。分野別の役員が決まらなると日程調整が出来ないので、明日3日、11:30～拡大役員会を開催し、設定する。連携会員に選ばれなかった候補者への措置について、何も通知が行っておらず、推薦の段階で様々な書類を作成してもらっているのに、通知をすべきだという意見がだされたので、検討することとした。

7 日本の展望について

広渡部長より目的について説明があった。広渡部長メモ(資料6-2)について説明があり、これから分野別委員会においてメモに記載された事項に配慮の上、審議してもらいたい旨、説明があった。佐藤会員より心理学・教育学は心理学と教育学として別々にレポートをまとめさせていただきたいとの発言があり、了承された。テーマ別分科会について、大沢委員より「社会の再生産」分科会、猪口(孝)委員より「世界とアジアのなかの日本」分科会、広渡部長より「個人と国家」分科会について説明があった。

8 AASSREC・IFSO 分科会について

広渡部長より国際委員会が検討した報告書に従い、第1部のもとに、10分野別委員会の合同分科会として設置するに至った経緯について説明があった。委員会は継続してすぐに活動が必要なため、第20期より継続する委員をはりつけて出発し、その後、新しい位置づけに応じて委員の追加を考えている、との説明があり承認された。

9 その他

「人文社会科学と学術分科会」の第20期の経緯について佐藤会員より報告があった。どの時期に提言するのがもっとも有効か、を考慮に入れ、以下の3点を審議する。

- ・ 人文社会科学の研究基盤の問題
- ・ 大学における教育の問題 (社会における教養の問題)

- ・ 若手の育成

今までは原則論だけが議論されており、第 4 期科学技術基本計画に合わせ、具体的提言が必要との発言があった。

残りの時間を自由な討議に当て、以下のような意見が出た。

- ・ 日本の展望にしても他の審議にしても、すぐにテーマや分野が分かれているのはよくないのでは。今日の部長互選の際のような全体のフリーなディスカッションが必要だと思う。

- ・ 『学術の動向』の買い上げ 1 2 0 0 部（公共機関に配布していた分）がなくなってしまった。会員・連携会員に配布するようにお願いしてきたが逆の方向へ進んでいるのが残念に思う。学術基本法が作られる可能性があるならば、希望が持てるだろう。

- ・ 『学術の動向』は全連携会員に購入してもらえるような条件作りが必要。連携会員を一同に集めて会長が挨拶する機会を設けるべき。ぜひ第 21 期中に実現させたい。